



旧鋳物問屋鍋平別邸 (川口市母子福祉センター)

2014年9月 訪問
 埼玉モダンたてもの学生レポーター
 法政大学人間環境学部 吉田 奈津美



「思い」の詰まった建物

→各人の思いを感じながら見学されると、建物により親しみを感じられます。

この建物は旧鋳物問屋「鍋平（なべへい）」別邸として、4代目嶋崎平五郎氏が建築したものです。ところどころに洋風のデザインを取り入れたり、外国製の骨董を並べるなど、西洋文化の風情を取り入れたそうです。

川口には小さな鋳物屋が多く存在しており、鍋平は卸問屋として川口の鋳物業界になくてはならない存在でした。当時、財を成した卸問屋だったためか、このような贅沢な建物を造ることができたそうです。

〈主屋〉

和の雰囲気が出ています。
 透彫欄間など細部に凝った意匠が見受けられます。



〈庭〉



こちらが庭園!!

現在、水は流れていませんが、立体的な石組と流れ落ちる水でダイナミックに表現していたようで、富士山を表現している石とともに、流れる水は駿河湾をイメージした池泉回遊式庭園です。



離れの青い瓦は水瓦とよばれ非常に貴重です。割れてしまったらもう作ることはいけません。

外から見ると、主屋(左)と離れ(右)の違いがわかります。主屋は明治末ごろに建築された和風建築。離れは昭和14年に増築されました。

〈茶室〉

茶室の天井は松竹梅で作られていました!!
 細かいところまで工夫が施されています。



←竹
 ←梅の木
 ←松の木

この素敵なステンドグラスの窓を持つお部屋は客間…



ではなく、トイレでした。和と洋が混在しています。とても美しく豪華な雰囲気漂っていました。このようなトイレだと行くのが楽しみになってしまいます♪



この写真は女性用トイレの天井です。美術竹(四角い竹)が使われています。



この写真は男性用トイレの天井です。天井に意外な発見があるものですね！



蛇口もとても素敵です。カタツムリの装飾がついています。

離れは見どころがたくさんありました！



床の間を囲む銘木は、赤松・黒檀・エンジュです。



欄間に使用されている結晶ガラスは今では手に入りません。



ふすまの引き手に描かれた意匠も凝っています。内側に巻かれるようになっているデザインがとても珍しい。



この色ガラスはスライドするんです！換気扇の役割を發揮しています。



障子の格子はよく見ると上だけ傾斜がついています。ほごりがたまらないようにという技術者の心が伝わってきます。

ちなみに別の廊下は緑の色ガラスでした。



川口市母子福祉センターには色々なところに管理者の寄贈者・子供たちへの想いや寄贈者から管理者への感謝にまつわるストーリーがありました。素敵な建物だというだけでなく、お話を聞くと身近にあるモノに対する愛着も深まると思います。

※川口市母子福祉センターは2014年10月1日から川口市母子・父子福祉センターに名称変更されました。